

## D-040 領域分割画像に基づく言語メタデータの自動生成手法 Automatic meta-data generation of image regions

小泉 大地<sup>†</sup> 大西 正裕<sup>†</sup> 柘植 覚<sup>†</sup> 獅々堀 正幹<sup>†</sup> 北 研二<sup>‡</sup>  
Daichi Koizumi Masahiro Ohnishi Satoru Tsuge Masami Shishibori Kenji Kita

### 1. はじめに

画像データベース中の各画像に対し言語的なメタ情報を付与することにより、画像に対する意味的検索を行うことが可能となる。しかし、データベースが大規模な場合、人手によりすべてのデータにメタ情報を付与することは困難であり、自動的あるいは半自動的に付与する手法が必要となる。

本稿では、混合ガウス分布モデル (Gaussian Mixture Model; GMM) を用いて、画像中の各領域に適切な言語メタデータ (キーワード) を付与する手法を提案する。また、風景画像を用いた実験により、提案した手法の有効性を評価する。

### 2. 混合ガウス分布モデル

混合ガウス分布  $P(\mathbf{x}_n|\theta)$  は任意の分布を複数のガウス分布  $P(\mathbf{x}_n|k, \theta)$  の線形結合で近似するものであり、以下のように定義される。

$$P(\mathbf{x}_n|\theta) = \sum_{k=1}^K P(\mathbf{x}_n|k, \theta)\pi_k \quad (1)$$

$$P(\mathbf{x}_n|k, \theta) = \frac{1}{\sqrt{(2\pi)^M |R_k|}} \exp\left\{-\frac{1}{2}(\mathbf{x}_n - \mu_k)^T R_k^{-1}(\mathbf{x}_n - \mu_k)\right\} \quad (2)$$

なお、 $\mathbf{x}_n$  は  $M$  次元の特徴ベクトルであり、モデルのパラメータ  $\theta = \{\pi_k, \mu_k, R_k\}$  は以下の通りである。

$\pi_k$  : ガウス分布  $P(\mathbf{x}_n|k, \theta)$  の重み ( $\sum_k \pi_k = 1$ )

$\mu_k$  :  $M$  次元平均ベクトル

$R_k$  :  $M \times M$  共分散行列

多次元特徴ベクトルの系列  $\mathbf{x} = \{\mathbf{x}_n\}_{n=1}^N$  に対し、対数尤度は以下のように定義される。

$$\log P(\mathbf{x}|K, \theta) = \sum_{n=1}^N \log \left( \sum_{k=1}^K P(\mathbf{x}_n|k, \theta)\pi_k \right) \quad (3)$$

### 3. GMM を用いた言語メタデータ生成手法

本節では、GMM を用いた画像の領域に対するキーワード付与手法を提案する。以下では、GMM の学習処理および GMM による言語メタデータ付与処理について述べる。

#### 3.1 GMM の学習処理

原画像を複数の領域に分割し、各領域に対し適当と思われるキーワードを手で付与する。その後、キーワードごとに領域を分類し、領域内のすべての画素を対象に  $xy$  座標値および LUV 色情報から成る 5 次元の特徴ベクトルを作成する。この際、各次元の特徴ベクトルの分散を考慮し、 $xy$  座標値および LUV 色情報にはあらかじめ正規化を施しておく。正規化した特徴ベクトルをキーワードごとに 1 つの系列にまとめ、各キーワードに対する GMM を作成する。なお、GMM の推定には参考文献 [1] の手法を用いたが、この手法では、MDL 原理に基づき GMM の混合数を自動的に推定している。

図 1 の例では、原画像がそれぞれ 3 つの領域に分割され、各領域に対し「空」、「木」、「草原」といったキーワードが付与されている。この場合、「空」、「木」、「草原」の各領域から得られる特徴ベクトルの系列から、それぞれのキーワードに対する GMM を作成する。

#### 3.2 GMM による言語メタデータ付与処理

GMM 学習処理と同様に、入力画像を領域分割後、各領域の特徴ベクトルを作成する。式 (3) から、各キーワードの GMM に対する領域の特徴ベクトル系列の対数尤度を求め、値が大きいものをその領域のキーワード候補とする。

図 1 の例では、入力画像から分割された領域から特徴ベクトル系列を作成し、その特徴ベクトル系列と学習したキーワードの GMM に対する対数尤度を求め、最も大きい値となる「空」をキーワード候補として出力する。

### 4. 評価実験

本節では、提案手法の有向性を調べるために学習用データと評価用データを用意し比較実験を行った。以下では、実験概要および実験結果について述べる。

#### 4.1 実験概要

評価実験では、Corel 画像データベース [2] から抽出した風景のカラー写真画像 500 件を用い、このうち、400 件を学習用データ、100 件を評価用データとした。

まず、各画像を平均移動アルゴリズム (mean shift algorithm) [3] を用いて、自動的に複数の領域に分割した。なお、領域分割の際には色情報のみを用いており、1 画像当りの領域数は平均 12 個と比較的粗い分割となっている。その後、各領域に対して適当と思われるキーワード (例：海、山、草原等、総数 67 個) を人手により付与した [4]。多くの場合は 1 つの領域に対し 1 つのキーワードのみが付与されているが、領域分割の仕方によっては、1 つの領域に複数のキーワードが付与されているものも少数ながら存在する。

次に、学習用画像 400 件から得られた領域 (領域総数 4836 個) から、画素の  $xy$  座標値および LUV 色情報か

<sup>†</sup>徳島大学 工学部

<sup>‡</sup>徳島大学 高度情報化基盤センター

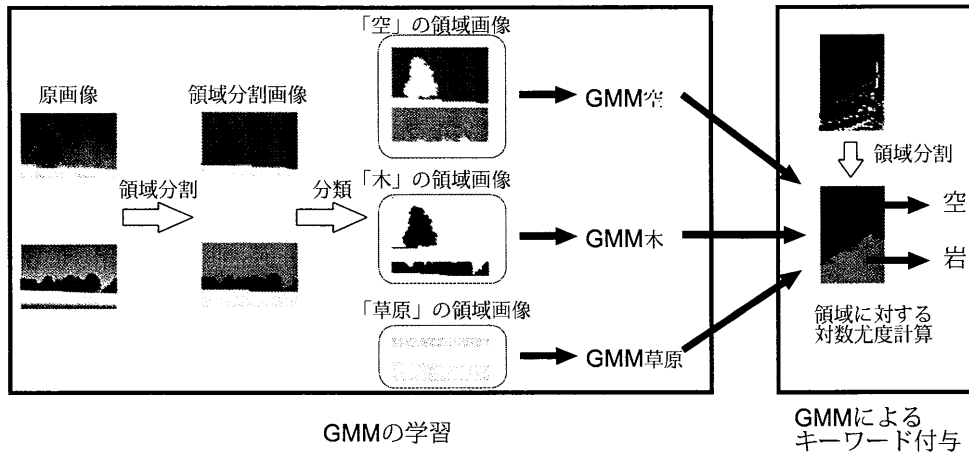


図 1: GMM を用いた領域画像への言語メタデータ付与処理

表 1: 言語メタデータの累積正解率

順位	混合数 8	混合数 16	混合数 32
1	28.09%	30.38%	(実験中)
2	42.30%	44.51%	(実験中)
3	53.67%	55.88%	(実験中)
4	62.19%	64.87%	(実験中)
5	68.74%	71.42%	(実験中)

ら成る 5 次元の特徴ベクトルを作成した。作成した特徴ベクトルを領域に付与されたキーワードごとに分類し、各キーワードに対する GMM を作成した。また、混合数の最大値を 8, 16, 32 と変化させ実験を行った。

キーワードごとに推定された GMM を用いて、式 (3) により、評価用画像中の領域に対する対数尤度を求める。本実験では、対数尤度が大きいもの上位 5 件から領域に対する候補キーワードを生成した。

#### 4.2 実験結果および考察

評価用画像 100 件から得られる領域 (領域総数 1267 個) に対し、人手で付与した正解キーワードと、提案手法により付与した上位  $x$  件 ( $1 \leq x \leq 5$ ) 内に含まれる候補キーワードとを比較することで累積正解率計算した。結果を表 1 に示す。

実験結果より、候補キーワード上位 5 件までの累積正解率は 70% を達成した。また、混合数の増加により累積正解率も弱冠上昇した。現在、混合数 32 に対し実験を行っている。

誤りの例として、「太陽」、「道路」、「石」など学習データ数が少ないキーワードが確認できた。これらキーワードの学習データ数は 3000 以内となっており、正解例キーワードの学習データ数と比べ  $1/5 \sim 1/10$  の学習データ数となっている。以上より、提案手法での各キーワードの学習データ数は 5000 以上用意する必要があると考えられる。

また、正解率が高かったキーワードに対し、正解キーワード以外にどのような候補キーワードが付与されているかを調べたところ、「雲」に対する領域に「空」というキーワードを付与したもの、「岩山」に対する領域に「岩」というキーワードを付与したものなどが確認できた。一般に、領域に対しキーワードを付与する場合、付与する人間によりキーワードは変化する。そのため、上記の例のように、関連語となるキーワードはあらかじめまとめておく必要があると考えられる。

#### 5. まとめ

本稿では、キーワードごとの GMM を作成することにより、画像中の各領域に適したキーワードを付与する手法を提案した。また風景画像を用いた評価実験により、提案手法を用い付与したキーワード上位 5 件までの累積正解率は 70% を達成した。

今後の課題として、学習データ数の変化による精度比較、また各キーワード間の相関関係を考慮した言語メタデータ生成手法の提案が挙げられる。

#### 参考文献

- [1] C. A. Bouman: "Cluster: An unsupervised algorithm for modeling gaussian mixtures", 1997. <http://www.ece.purdue.edu/~bouman>.
- [2] Corel Gallery homepage. <http://www.corel.co.jp/>.
- [3] D. Comaniciu and P. Meer: "Robust analysis of feature spaces: Color image segmentation", *Proc. of IEEE Conference on Computer Vision and Pattern Recognition*, pp. 750-755, 1997.
- [4] 小泉大地, 柘植覚, 獅々堀正幹, 北研二: 「テキストと画像のクロスメディア情報検索に向けた画像キーワード登録システムの開発」, 情報処理学会データベースシステム研究会資料, No. DBS-127, pp. 105-112, 2002.